

1954年（0歳）

福岡県築紫野市二日市に生まれる。父、九州派の主導者、桜井孝身。

1969年（15歳）10月（満16歳）

父とともに渡米（サンフランシスコ）アート・コンミュン「コンニャク」で生活。

1973年（18歳）

帰国。

1974年（19歳）

サンハウス（ロックバンド）の初コンサートポスター作成。福岡県文化会館個展（6月17日～22日）「春がきた」など大小の作品 50点を展示。

1975年（21歳）

「フクニチ」（6月20日）「鑑賞席」に「現代のビーナス」文・（深野 治）が掲載される。「春が来た」がヤマハ L-motion Rockのポスターに採用される。

1976年（22歳）

東亜ギャラリー個展（8月24日～29日 福岡）「フクニチ」（8月25日）「鑑賞席」に「新鮮な「現代」の発見」文・（深野治）が掲載される。

1977年（23歳）

東亜ギャラリー個展。今日の美術展出品。（7月19日～24日）

1978年（24歳）

福岡画廊個展（12月1日～7日） 渡仏、父とともにパリ郊外（パニュー）に住む。

一次帰国。「JUMP IN THE-COSMOS」を発表。エン・ギャラリー第10回個展（11月8日～14日 福岡）

案内状（文・鈴木召平 記録と芸術の会）

1979年（25歳）

福岡画廊個展（4月24日～30日）

渡仏ノーベンパー・ア・ピットリー展（フランス）に「人と風と自転車と」を出品。

在仏日本人画家展出品（パリ）

1980年（26歳）

エン・ギャラリー個展

フジカワ画廊個展（6月25日～31日 福岡）福岡エコール・ド・フクオカ連鎖個展のトップバッター、「猫」「猫と少女」のシリーズを出品。

エ・コール・ド・フクオカ出版（権歌書房）

「西日本新聞」（6月26日）「ギャラリー」で「てらいのない形、色」が掲載される。

KBCギャラリー第16回個展「過去と未来の間で」（10月20日～27日 福岡）

1981年（27歳）

福岡市美術館第17回個展「私自身のための広展」（4月21日～26日）

KBCギャラリー個展（11月24日～29日）シリーズ「サイレント・クライ」2点、「叫び」4点、子供の遊び20点などを出品。

「フクニチ」（11月28日）「美術展評」で「櫻井共和展」が掲載される。

1982年（28歳）

第15回 西日本美術展奨励賞受賞。

1983年（29歳）

東京セントラル美術館油絵大賞展出品。

KBCギャラリー個展。

「フクニチ」（12月3日）「文化」の「アトリエ訪問 30代・その人と作品（13）」で「櫻井共和さん変化を生る原動力に楽しく無理なく瞬発力で」（文・勝瀬志保）が掲載される。

1984年（30歳）

秀巧社ギャラリー個展（福岡）

なかむらギャラリー二人展（大阪）

福岡市美術館「30代展」（12月20日～27日）「二人で見たサーカス」（100号）を出品。

1985年（31歳）

フジカワ画廊福岡店個展。（6月24日～30日）

ギャラリーおいし個展（福岡）（6月4日～10日）

1986年（32歳）

有楽町マリオン・朝日ギャラリー個展（東京）

1987年（33歳） ギャラリーおいし個展。

「フクニチ」（6月26日）「芸術ART」の「どうして猫なのかあ油絵作家櫻井共和さん」（文・阿部成人）が掲載される。

熊本県立美術館「心に刻むアウシュビッツ展」の告知ポスターを制作。

福岡市美術館個展（8月16日～21日）100号30点を含む41点を出品。

「シティ情報ふくおか」（隔金刊8月23日号）「ART」に「ネコと女を描き続ける櫻井共和展、市美で」が掲載される。

日本興業銀行のカレンダーに採用される。

有楽町マリオン・朝日ギャラリー個展（東京）（10月2日～7日）

「月刊アトリエ」（1988年2月号）「秋山塾長の愛あるイレコミ情報局思い込みニュース」に「アッパレ!あんたが大将」（文・秋山祐徳太子）が掲載される。

1988年（34歳）

ギャラリーおいし個展（5月14日～19日）

「西日本新聞」（5月15日）「ギャラリー」に「絵を楽しんで 櫻井共和」が掲載される。

有楽町マリオン・朝日ギャラリー個展（東京）

日本興銀のカレンダーに再採用される。

1989年（35歳）

ギャラリー88個展（東京）

ギャラリーおいし個展（5月13日～18日）「なんとない日（1）」など近作約30点を出品。

「毎日新聞」（5月11日夕刊）「美術」に「櫻井共和展 画風にくらかの変化」（文・重里徹也）が掲載される。

「フクニチ」（5月12日ごろ）「文化」の「展覧会散歩」に「櫻井共和展」（文・阿部成人）が掲載される。

1990年（36歳）

ギャラリーおいし個展（5月18日～27日）

1991年（37歳）

ギャラリーおいし個展（10月29日～11月3日）

1992年（38歳）

ギャラリーおいし個展（6月23日～28日）

「月刊はかた」（8月号 No.45）の「Gallery Rambling」に「小鳥のさえずりのような明るく楽しい絵画世界「女と猫の旦永」」（文・谷口治達 当時・九州造形短期大学教授）が掲載される。

1993年（39歳）

「毎日新聞」（11月14日、21日）に「ふくおか新名所評判記」として「新天町の画廊」と「けやき通りの喫茶店」の二回を掲載する。

ギャラリーおいし個展（10月26日～31日）

1997年（43歳）

ソトコクラブ（当時の福岡シーホーク内）個展（10月10日～24日）

1998年（44歳）

由布院駅アートホール個展（6月1日～30日）

2000年（46歳）

東京に移転する。

2002年（48歳）

ギャラリーおいし個展。（10月22日～30日）

2003年（49歳）

みゆき画廊個展（東京）（2003年～2015年まで毎年）

2005年（51歳）

「日経ヘルスケア21」の表紙（12月号）掲載。

2006年（52歳）

真言宗豊山派清龍山遍照院の本堂の壁画制作依頼により「Lucky Dragon」を制作。

2007年（53歳）

作品集「Tomokazu/Sakurai」権歌書房より出版

2009年（55歳）

ギャラリーおいし個展。（2009年～2016年まで毎年）

2011年（57歳）

作品集「Black Tulip」権歌書房より出版。

2016年（62歳）

文房堂ギャラリー個展（東京）（10月3日～8日）

絵画論「零度」権歌書房より出版。

2017年（63歳）

ギャラリーEM個展（長崎）（10月7日～21日）